

「are から were へ」

政策研究大学院大学名誉教授
跡見学園女子大学 心理学部臨床心理学科 特任教授 鈴木（堀田）眞理

私は、東京女子医科大学内分泌内科での研修医時代に視床下部ホルモンの単離・同定時期に遭遇して、Corticotropin-releasing hormone (CRH) の基礎・臨床研究に携わり、日本でも増え始めた神経性やせ症で内因性 CRF の過剰分泌があることを報告しました。「治療が難しくて治らない」と聞けば聞くほど惹かれ、本症の病態を心理面だけで説明されることに疑問を感じて、遺伝子多型や神経内分泌・代謝からのアプローチを行いました。「治療難民」と評されるように、日本での治療支援の乏しさを痛感して、専門外来開設、家族会設立、厚労省調査研究班や日本医療研究開発機構助成研究、摂食障害センター設立運動、一般社団法人日本摂食障害協会設立、法務省女子刑務所モデル事業支援、国会議員によるプロジェクトチーム結成と広がり、これらの活動に対して本学会のご推薦で令和3年度内閣府女性のチャレンジ賞を戴きました。諸先輩や会員の皆様が摂食障害を内分泌内科の領域に入れて、私どもの研究や活動を応援して下さいましたことを心から御礼申し上げます。

摂食障害は気まじめな女性の心身症で、「現代社会の生き辛さ」を象徴しています。多彩な内科的合併症ゆえに精神科医の80%が治療は苦手と答えています。本症の先進国である英国でも「Eating disorders **are** orphan conditions (Birmingham CL & Treasure J. Medical Management of Eating Disorders 1st edition)」と記されています。医療の orphan (みなしご) になることはどれほど心細いかと心を痛めます。日本でも「Eating disorders **were** orphan conditions」と言える日が来るように、もうしばらく尽力したいと思います。